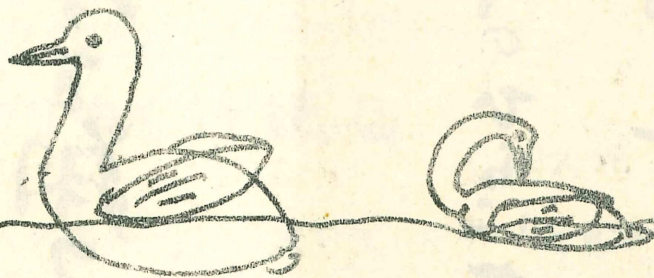
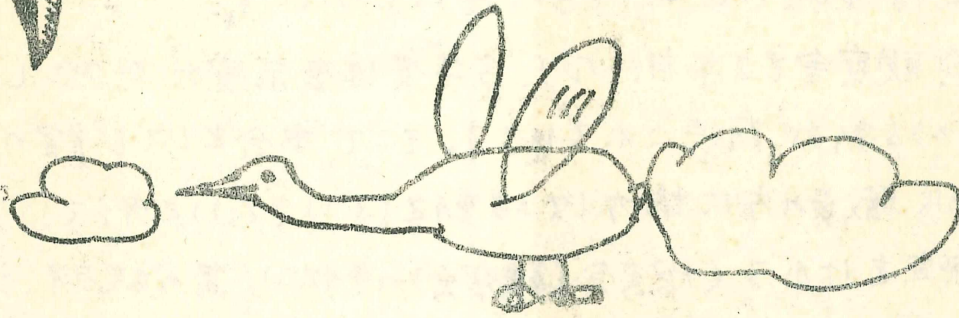


すずかも通信 No. 6

1981.4.1



振替 仙台-6129 行徳野鳥観察会友の会会報



えみこ

えみちゃんとぶーさんの会話
・ねえーぶーちゃん えみちゃんも鳥み
たいに、空まで飛んでみたいな。

・ほんとね。ぶーちゃんも飛んでみたいな
ねえーぶーちゃん どうしたう飛べるか
てうね。どうしたう飛べるかな？

・そうよ あんなにたくさんスズカモ
がいるでしょ。スズカモさんに「ス
ズカモさん。えみちゃんも空まで
飛びたいから、おわかい スズカモ
さんのはね一枚だけちょうだい」
って、一羽一羽にお願いして
みたらどうかしらう。
みんなが一枚ずつくれたら何
万ものはねが集まるでしょ。
それさ、えみちゃんの体中に
ければもしかしたら、大空まで
飛べるかもね。

ほんとかなぶーちゃん
えみちゃんほんとだといいなー。

(文子)



田久保晴孝

新観察舎も2年目になり、今年度は展示室がオープンし、より充実した館の活動が期待されています。そこで本会としても館の充実、発展のために職員の方に協力して活動をしていきたいと考えています。来館者の便宜をはかる(探鳥会(観察会)の手伝い、鳥の説明、ゴミひろい等)とともに、利用者の代表として、施設等について、県・市に改善を求めていきたいと考えていますので、お気づきの点がありましたら事務局までお知らせ下さい。

夕鴨の降り来る頃と思ひ待つ
水を翔つ鴨のかうたの膳けり
手のひらにた右目配り蟹敵意
潮遠く飛節飛んで蟹前へり



2 (026)



鴨 カモ
と
鰐 カニ



米野耕人

米野んは、
鴨と蟹という
句集を70才の
ときに出された

・アオサギがハマシギを飲んだ話
1/2 アオサギがハマシギをのみました。ハマシギが羽を痛めていたので、羽がつかえただけで、頭と口はしだけのごに入って苦勞していました。

血まみれになった魚の言
アオサギが魚をとりました。アオサギに
よくつかれたのが魚は、血まみれ
「ワ、血まみれだ」まわりの人も、その
のさげを聞いていたのが、それまで
していました。

6. アオサギがハヤブサにめわ^めわ^われたこと
アオサギに、ハヤブサが「ちっかい出した言事で
12月本 ハヤブサがアオサギに急降下をしかける
とアオサギは首をちんと折^やんで、外をのけ
ました。アオサギのあかす^あと大きく、ふだんアオ
サギをハヤブサがつかう様^{よう}な事はありません。

変わりゆく行徳②

せき(堰)ざらい

(田久保文子)

今はなつかしい村の行事になってしまいましたか、大寒が明けると
まもなく、せきざういかに行なわれました。

せきざういとは、村の男衆が集まって、土砂で詰った水路(みお)の底を、堰る仕事で、水の流れをせき止めて堰るのです。体中どろ水につかっている仕事で、かなり重労働のはずみだが、皆さん大声ではしゃぎまわっていました。

それは、堀るそばから、フナ、コイ、ドジョウ、ウナギ、ライギョ……などその日の夕食のおかずでは、ありあまるほどの魚が手づかみで取れるからです。一栗しいはずですよ——。そして、あまたの魚のつるしずしを、華下に見られるようになります。甘露煮になって田植えや稲刈りのお弁当のおかずになるのです。

この水路(みお)は、秋になると、(とうちゃん・おあちゃん)の二人の所台 正蔵さんによ
って、田んぼで干された稲を山とつんだ小所(べか所)が、器用に舟先と機
をさおでおされてやります。それはとてそのとめな光景でした。
(水路わきのマコをや店の水車そんなものも大切にしたい) 75年までの光景です。

行事案内

春の植物観察会(園内)
3月29日(日) 1:30~4:00
集合 観察会前 1:30

スライドとシギ・チドリの話
4月12日(日) 2:00~4:00
観察会:視聴覚室

シギ・チドリのシーズンです。むづかしい
と思われているシギ・チドリの識別を中心
にスライドとお話します。鳥以外でもス
ライドをお持ちの方はご持参下さい。

事務局より



5月: バードウィーク特別行事
(5/10~17)

まだ未定ですが、館の行事に協力す
る形で予定しています。

新浜自然観察会
4月5日(日), 5月3日(日)

集合: 行徳駅前広場 9時30分

シギ・チドリなどを中心とした水鳥の観察
(江戸川放水路下流, ハス田見学, 午後
保護区の園内観察会に参加)

なお4月は千葉県野鳥の会, 5月は東京支部とい
います。

◎ 友の会 会員継続手続について (前編されている方はあしからず)

友の会・会費をNo.5号同封の振替用紙をお使いの上おおせめ下さい。 仙台-6129
年会費 普通 1000円, シニア 500円 賛助 2000円以上

(観察会においても、会費をおさかっていただけですので、来園の時おおせめ下さい)

◎ 観察会にて、野鳥の図かん等や蓮花さんか育った花の小草を販売しています。ヨロシ!
昭和55年度決算報告(自昭和55年1月1日~至55年12月31日)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
会費 (136名)	152,500	通信費 (切手, 封筒)	26,740
(賛助会員32名 普通63名)		会報 (印刷費, 用紙)	8,320
シニア 41名		備品類 (印章, 金庫金印)	21,700
寄付金 (12件)	25,200	消耗品 (領収証等)	240
収入合計	177,700	雑費 (金庫借料, 調紙)	3,840
収支差額 116,860円 (次期繰越金)		支出合計	60,840

会計担当 電谷栄

編集後記

2ヶ月はアという間に過ぎ、原稿集め、割りふり、カット...と精を出しています。
ぜひ、家族のこと、鳥のニュース、自然保護の意見、カット等を本館集までお寄せ下さい。
・会員の東良一さんと 笹川馨子さんが結婚され、行徳の住人になりました。(H君のとなり)
これから、観察会や編集の手伝いをしてくれるとのことですので、よくよく、又会員の観察会に
かへ新聞「カイツブリ」を書いてきた清水大悟君(新浜16年)は新潟へ引越されました。新潟でもカ
キツブリ、山本英子さん 行徳11年。カット 田代保

すずがも通信

No. 6-1981.4.1

発行人 電谷 栄

事務局 鈴木 有方

編集人 田久保 晴孝・文子